

新装版

建築保存概念の生成史

清水重敦（京都工芸繊維大学教授） 著

定価 6,820 円（本体 6,200 円＋税 10%）

A5 判上製カバー装 本文 424 頁 ISBN 978-4-8055-0895-4 C3052

「建築保存」は
近代日本に
何をもたらしたのか



日本における建築遺産の保存は、精緻かつ科学的な体系を有しながら、解体修理の手法などに伝統を色濃く残してもいる。この特質がもつ意味を明らかにすべく、日本近代において建築保存概念が生成していく過程を近世からの継承と転換として論じていく。文化財保存の史的再読を通して日本の建築保存の意味の拡張を意図しつつ、近世近代建築史として伝統と西洋の混濁の具体的様相を描き出し、保存から日本と東アジアの新たな建築史叙述を志向する。

本書は、2015年日本建築学会賞・第18回（2014年）建築史学会賞・日本イコモス奨励賞2014を受賞した『建築保存概念の生成史』（2013年刊）の新装版です。

近代日本建築史における基本文献、待望の新装普及版！

目次概略

序論

第Ⅰ部 建築における「過去」と近世―近代

第一章 建築における過去

——日本近世―近代における継承と転換の位相

第二章 春日座大工の持続と終焉

第Ⅱ部 「日本建築」と「保存」概念の同時生成

第一章 写真と日本建築

第二章 運用実態から見た古社寺保存金制度の特質

第三章 古社寺保存金制度の成立と終焉

第四章 伊東忠太と「日本建築」保存

第五章 古社寺保存会章創期に作成された建造物等級表について

第六章 古社寺保存法における指定制度の運用と「伝統」像の形成

第Ⅲ部 「日本建築」への介入―古社寺修理

第一章 日本の建造物修理

第二章 関野貞と古社寺保存

第三章 松室重光と古社寺保存

第四章 古社寺修理における技術者の系譜

第五章 トラスを入れる

——明治を生きた大工木村米次郎と近代和風建築

第六章 日韓における黎明期の建造物保存修理

第七章 日本建築と実測図

第八章 古社寺修理におけるトラスの挿入

第九章 大江新太郎「日光廟修理弁疏」再読

第十章 明治期建造物修理の理論形成過程

付 長野宇平治「奈良県仏寺修繕意見書」

(奈良県庁所蔵『古社寺調書参考書類』)

結論

参考文献一覧／図版出典一覧／初出一覧／あとがき／新装版あとがき／用語索引

【著者略歴】

清水重敦（しみず・しげあつ）

京都工芸繊維大学デザイン・建築学系教授。博士（工学）。

1971年東京葛飾生まれ。1993年東京大学工学部建築学科卒業。1999年同大学大学院工学系研究科博士課程単位取得満期退学。独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所景観研究室長、京都工芸繊維大学准教授を経て、2017年より現職。

関連書籍

第26回日本建築史学会賞受賞

日本近代の建築保存方法論

青柳憲昌 著

定価 13,200円（本体 12,000円＋税）

日本近代の文化財修理史において、「復原」をめぐる保存思想はどのように形成されたのか。昭和9年に開始された法隆寺昭和大修理の現場を中心に、建築を「保存」という行為そのものに内在する本質的な問題についての考察し、現代の保存に何を示唆しているかを問い直す。

A5判上製函入 本文388頁 口絵4頁 2019年12月刊
ISBN 978-4-8055-0876-3

日本イコモス奨励賞 2019 受賞

木造建築遺産保存論

マルティネス アレハンドロ 著

定価 13,200円（本体 12,000円＋税）

従来、「木」対「石」の構図で語られてきた、日本と西洋の建築遺産保存の比較。本書は、この対立の構図を乗り越えるために、両者の木造建築遺産保存に注目し、建築遺産の評価基準の違いなどの理念的な側面を踏まえつつ、日本の特質を浮かび上がらせ、その課題と今後の展望を論じる。

A5判上製函入 本文392頁 口絵8頁 2019年2月刊
ISBN 978-4-8055-0861-9

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1

IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱い